

シオンの子

第 28 号

2012.5.5

創立60周年記念号

子持山学園創立60周年



編集
発行 印刷
ホームページ

社会福祉法人子持山福祉会
児童養護施設 子持山学園
<http://www.komochiyama1952.com/>

〒377-0203 群馬県渋川市吹屋 201-1
TEL 0279-23-1152 FAX 23-1153
Mail komochiyama1952@mist.ocn.ne.jp



六十周年記念 に寄せて

理事長 島田 卓爾

永い間のいろいろな方々の想いがぎっしりと詰っている六十年、いつの間にかというよりやっと辿りつけた金字塔でもあります。終戦後のあのどさくさの中、創始者の中澤英三先生が恵まれぬ子達と一緒にブロッツク壁を積み上げ乍ら形作つた精神が独立自尊の気風として今でも根付いています。代々続く経営者・施設長（園長）やそれぞれの分野の職員・先生方が幾多の苦

難を乗り越えてやってきたことが園児の成育そして社会に出てからの活躍に大きな寄与を果していると思いを張って誇りにしてよいでしょう。

「人の赤ちゃんは、何故この世に生れてきたのでしょうか？」との問いかけに「人はみんな大人になるために」と答えます。それでは「人は何故大人になるのでしょうか？」との問いに「将来生きてゆく社会に、お世話になったご恩返しをするために」と誰しもが答えられるように園児を育てる理想郷が、この園の究極の目的なのです。

この春に、中学を卒業した園児たちが、それぞれ自ら選んだ高校に全員合格を果し、勇躍つぎの目標に向けて第一歩を踏み出したのです。園児たちのその眼の輝き（かがやき）を無為に終らせないような日本の政治・社会であって欲しいと願うのは私ばかりではないでしょう。

つぎの七十周年を目指して、園児たちの成長とともに、地道に堂々と歩を進める子持山学園に栄光あれ！

支えられて六十年 ありがとうございました

園長 豊田 誠

「いと小さき者への愛を」というキリスト教の精神に基づき、昭和二十七年、中澤英三先生により児童養護施設「子持山学園」は創設されました。皆様の支援により、より家庭的な環境に
よる小舎制の施設として運



営されています。十年前には浅田ホームが、昨年はシオンホームが新築されました。遊具の設置、学習環境の整備にも取り組んできました。よりよい支援を求めて職員による「モンセンス・ペアレンティング」の研修にも力を入れています。この間、世の中は大きく進歩し、人々の生活も豊かになり、大家族から核家族へ、価値観も個人中心へと変わってきました。豊かさの便利さが増すとともに、家庭崩壊や虐待等による入所児童は多くなってきました。

現在、学園では二歳から十八歳までの男女五十人が生活しています。愛と奉仕を基本に、安心して生活ができる人づくりを目標に様々な取り組みをしています。毎日の生活を大切に丁寧

に指導することで、必要な習慣や行動を身につけたい。信頼できる大人と仲間がいる学園であり、人として守らなければならないことが



きちんとできる児童でありたい。たとえば礼儀正しい人の育成。あたり前のことをあたり前にできる人。失敗の経験もするでしょう。「それでもなお」頑張る気持ちを持ってほしいし、「だから人生おもしろい」という前向きな考え方で乗り越えてほしいと願っています。

この間、多くの方々にお世話になりました。長年にわたって支援してくださっている方、ボランティアの方、わざわざ学園を訪ねてくださる方、学園で生活したことのある方、職員や家族、理事・評議員、学校の先生、友達、地域の人々、

行政の関係者。多くの人々に支えられて子持山学園の今日があると感謝の気持ちで一杯です。子ども達の未来が希望を持てるものになるよう、今後とも頑張りたいと思います。

創立六十周年を 迎えるにあたり

名誉園長 中澤 文子

児童養護施設子持山学園は今年の八月創立六十周年を迎えます。先日五十周年を迎えたと思っていましたのに。私にとってこの十年間の大きな出来事は、シオンホームの建て替えです。シオンホームは元副園長の横堀先生が退職する際、先生より譲り受け多目的に使用してきました。二〇〇四年より小規模グループケア施設として、シオンと名付け運営してきましたが、近年老朽が進み、「耐震化整備事業」として二〇一一年

三月に建て替えることができず、私の家の直ぐ隣に建てられたのでお隣さんとして親しく交流しています。

もう一つは一九七九年より三〇年勤務した子持山学園を退職したこと。しかし自宅が施設内にあるので今でも学園との関係は続いています。退職後二年目から地域のランドゴルフ愛好会、健康教室、長寿会など現役時代は知らなかった地域の方々と交流が始り、私が知らなかった学園の創立当初のことなど教えていただいています。その一つに、当時電話のある家は少なく緊急に連絡したい時は、



電話のある家に電話して呼出してもらう呼出というところが行われていて「園長さんが自転車で呼びに来てくれた」など話してくれました。昨年の三・一一震災以後絆々と叫ばれています。

多くの人と触れ合い知り合うことで理解を深め、理解が深まると親しみ絆も深まっています。この絆は私個人だけでなく、施設にとっても子どもたちにとっても良いことだと思えます。学園が地域の人に愛され地域のお役に立てることを願いながら、これからも歩いていきたいと思えます。

創立六十周年に あたって思うこと

監事 中野 順夫

昭和二十七年八月十八日、子持山学園は児童福祉法の定める理念とキリスト教の精神にもとづき創立されて以来、来る八月十八日をもつ

て六十周年を迎えられることに心からお祝い申し上げます。一口に六十年と申し上げてもその道程は長く、さぞ険しく困難なことが多々あったことと思われ

ます。この間における創立者を始め関係した多くの皆さんの労苦に、敬意を表したいと思えます。ところで、多くの子ども達が立派に成長し学園卒業後、社会人としてそれぞれの分野で活躍しておられると伺っており

ますが、六十周年を機会にさらなる努力を積み重ねて飛躍されるようお願い申し上げます。そこで、是非とも参考にしていただきたいことは、言うまでもなく一般的な言葉ですが、筋金のような強い身体作りと誰にも負けないような根性を育み、それに社会人として働く場合には仕事に没頭して精一杯働くということであり

ます。以上のことを常に心掛けて活動することにより心のやさしさ、人生における豊かさが実感できるの



ではないかと思われ。最後に、多くの皆様方には学園の子ども達が充実した生活環境のもとで逞しく成長することが出来ますよう、今までと同様心温まるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

創立六十周年を 迎えて

統括主任 太田 優子

十年ひと昔といいますが、五十周年記念式典からもう十年が過ぎてしまいました。あの頃から十年経って私何かの達人になったのか考えてみましたが、十年を過ぎてても何の達人にもなれていません。あれからいろいろな子ども



もたちと出会い、その家族の方々と接し、関係諸機関の方と子どもにとって何がよい方法なのかを考えてきたはずなのに、何に長けた訳でもなく、ただいろいろな思い出を重ねてきたように感じます。

子どもたちとの出会いはいつも新鮮でした。様々な環境の中で育ち、個性豊かで、ユニークでかわらしい子どもたちばかりです。児童相談所の先生、学校・幼稚園の先生、地域の方々の温かい眼差しの中で自分らしさ、子どもらしさを発揮できる所を探しています。

時には、失礼きわまりない行動もあります。物事を

知らなすぎる子どもたちは、様々な失敗を繰り返します。そんな子どもたちに寄り添い、理解しようと努力しようとするのが私たちの役割なのではないかと感じています。

六十周年を迎え多くの職員の方が、子どもたちひとりひとりを理解し導いて下さったことに感謝し、私自身もその心を引き継いでいけるよう努力していきたいと思っています。

私が一つのことに長けていくことよりも、この場所に子持山学園が有り続ける事がこどもたちにとって必要な事なのだ信じ頑張っていきたいと思えます。



居続けるということ

児童指導員 安井 剛

平成六年四月から今日まで、出会った多くの子どもたち、沢山の方たちに支えられながら、この場で六十周年の節目を迎えられる喜びと責任の大きさを痛感しています。

私が、入職当時から心がけていたことは、『居続けよう、子どもに寄り添っていこう。』ということでした。その場に居ること、子どもたちが少しずつ出来るようになり、共に成長を喜び、お互いの気持ちが変わっていき嬉しさを感じる場面が増えました。

卒園した子どもたちが、自分の家族を連れて、元気な姿を学園に見せに来てくれます。

この子どもたちがここに来るのは、帰ってくる家(場所)の一つだからということに改めて気付き、「お帰りなさい」と迎えらるるように

準備をしておきたいと思えます。

傍にいたことしかできない私ですが、これからも、一人でも、一つでも多くのことが伝えられるように学びながら子どもたちの傍に居続けたいと願っています。

一期一会、出会いを大切に、人とのつながりの中で生きていくことを、一人じゃないということをしる！

子どもの教会から

洪川教会 小野澤 章子

日曜日、朝九時、ドンドンと礼拝堂に向かって階段を上ってくる足音が響く。

みんな我先にと出席名簿に名前を書く。寒い朝なのに、寒さや眠さを少しも苦にしない元気な顔がそこにある。

「おはよう」と声をかけてくる子、恥ずかしそうにしている子、声かけを待っている子。今日もみんなに会えたね。聖書と讃美歌を持つ



て子どもの教会の礼拝を始めよう。

礼拝での説教はスタッフが交代で行っています。実際、私自身全くの不勉強で、子どもたちに聖書をいかに伝えればよいのか、本当に悩みと苦しみの連続なのです。でも、最近こう感じます。私は教えているのではなく、教えられているのだと。子どもの教会に集う一人一人を通して、たくさんのお言葉が私の心に蓄積されるのだと。

子どもたちにとって聖書のお話は今は難しいかもしれませんが、心の引き出しにしまっただけの神さまのお言葉が、いつか口を

ついて表れる日が来るかも
知れませんが。その日のため
に、子どもたちとの出会い
を待つ日曜日、子どもの教
会なのです。

あつという間の 八年

書道ボランティア
大塚 廣末

開園六十周年おめでとう
ございます。この間、どん
なにたくさんの子ども達が
学園を築立っていったこと
でしょう。

私と、山口道子さんの二
人でボランティア（書道）



として関わった期間は短く、
子ども達の人数もほんの少
しですが、それでも毎回子
ども達に接し、ほめたり、
しかったり、話を聞いてい
ると、心に残る思い出がた
くさん出来ました。

まだ小学校に入る前から、
ホームの先輩について来て、
ひと文字を半紙いっぱい
書き、ニコニコと喜んでい
た子も、今年は中学生。

「学校の書初め大会で金
賞をとる！」と宣言し、一
年間頑張つて見事目標を果
たした子。いつも静かに練
習をし、とても上手になつ
た子。

書道より、皆と騒ぎたい
子など。

又、中学生になり、部活
が忙しく練習に来られない
子が、夏休みにひよっこり、
少し大人びた顔を見せてく
れたり、子ども達の姿は様々
ですが、自分から希望して
書道を習いに来てくれるこ
とに喜びを感じます。

子ども達からエネルギー
を吸収し、学園の皆様の協

力をいただきながら、ささ
やかですが活動を続けてゆ
きたいと思えます。

子持山学園六十周年 誠におめでとう ございます

元職員 松林 瑞穂
(旧姓 横山)

私が、子持山学園に職員
としてお世話になり始めた
のは、約十年程前となり、
当時学校を卒業したての私
にとり初めての職場となり
ました。分からないことば

かりで大きな不安や緊張を
抱える毎日でした。そんな
私に心優しくまた時には厳
しく指導してくれる先輩方
や見守ってくれ、相談にのつ
てくれる職員の皆様に支え
られました。時には投げ出
したいと思ったこともあり
ますが、日々の生活や行事
を通し、少しずつ子ども達
とも距離を近づけていくに
つれ、この仕事の大変さだ

けではなく楽しさ・喜びを
感じていきました。子ども
達に何かしてあげたいとい
う気持ちで入職しましたが、
日々を送っていく内に子ど
も達から元氣や力をもらう
事も多かった様に思います。
自分が何かを・・・ではなく、
共に生きていく事の大切さ
や支え合い他者を思いやる
大切さを学びました。
現在も子どもと関わる仕
事をさせていただいていま
すが、子持山学園での生活
や経験があつたからだと思
います。



お祝いの言葉とさせていた
だきます。

続けるということ

元職員 陸川 恭太

設立六十周年、おめでと
うございます。職員の皆様
が子どもたちとの生活を一
日一日、大切に積み重ねて
きた賜物だと思います。

私が子持山学園に入職し
た年、子どもたちに職員と
して何をすればいいんだろ
うと思悩んでいたときに
ある方に「居続けることが
大事」といわれたことを思
い出します。確かに、一緒
に生活するメンバーがすぐ
に変わってしまう家庭はな
い。だが、家庭のように心
を尽くしても施設である以
上、職員の交替や子ども
の入退所があり、やむを得な
い事情を抱えております。
だから、せめて職員は居続
けてほしいという思いから
だろうと思えます。私が子

持山学園に入職してからは、
子ども達と関わる機会が多
くなり、彼らの成長や変化
に目を凝らすことができて
います。彼ら一人一人の
個性や才能が、この学園
の宝であると感じています。
これからも、彼らと共に
歩んでいきたいと思いま
す。

どもにできることはそれぐ
 らいのことしかないだろう
 と、妙に納得したものです
 結果、続けることで子ども
 たちとのかけがえのない関
 係をわずかながらも築けた
 ような気がします。まさに
 “継続は力なり”、続ける
 ことでしか得ることができ
 なかったものです。私が退
 職をして、三年になろうと
 していますが、退職後も私
 なりに細いながらも子ども
 たちとの関係を続けさせて
 もらっています。出会った
 ことに感謝し、これからも
 子持山学園や子どもたちと
 関係を続けさせていただけ
 ばと思います。



これからも子持山学園が、
 入所している児童や職員の
 方々はもちろん、卒園した
 児童や退職した職員にとつ
 て帰る場所として、ここ
 のよりどころとしてあり続
 けることを願っています。

創立六十周年おめでとう
 ございます。いつも絵を描
 くことを通して、園児たち
 の健全な成長と、学園の発
 展をお祈りしております。
 スケッチブックの表紙の
 裏面に、よく書く言葉に、
 “子どものうちは、感覚が
 光っている。世界に驚き、
 理解し、それを受け入れる
 事ができる。”というのが
 あり、私はこれを信じて絵
 の教室をやっております。
 子どもの良い絵の条件と

あの子直せた

ピノキオ絵画教室

島田 昌子



- ① 明るく、楽しい絵
- ② のびのびと自由に描かれ
た絵
- ③ 個性的で、その子ならで
はの絵
- ④ 内容が豊かな絵
- ⑤ 驚き(感動)を感じられる
絵
- ⑥ 精力的に一生懸命描かれ
た絵
- ⑦ たくましさのある自信に
満ちた絵

この七つの頭文字を拾う
 と、「あの子直せた」とな
 ります。描くことによつて
 良い子になってゆく筈です。
 若い時分の私は悩みなが
 ら指導して来ましたが、今
 では子ども達から感動をも
 らい楽しんでやっています。
 何気なく時間の流れる教
 室に、縁のあつた仲間が、
 大人になった時、目には見
 えないけれど、何かを少し
 でも心の奥に蓄えてくれる
 ことを願っております。未
 筆となりませんが、お忙しい
 中、送迎にお力添え下さる
 先生方に、更めてお礼申し
 上げます。

「絆」を信じて

(社)日本善行会

群馬県北毛支部長

島村 弘子

子持山学園の皆さん、こ
 んにちは！毎年暮れにお餅
 つきでお邪魔している善行
 会の「おばちゃん」です。
 今年、皆さんの学園が創ら
 れ六十周年を迎えたとのこ
 と、本当におめでとうござ
 います。六十年という長い
 歴史の中には、色々な思い
 が交錯されたものと思いま
 すが、学園を理解し支えて
 くださった方々、地域の皆
 さん方、また学園内で共に
 生活されてきた多くの先輩
 生徒さん方の強い「絆」が、
 いまこうして六十年という
 歴史をきざみ、良き伝統と
 して築かれたものと感銘し
 ております。

私達、日本善行会は「み
 んなの幸せのために、人間
 愛に生き、いつでも、どこ
 でも、誰にでも出来る善行
 の輪を広げよう」をモットー
 に、善行表彰・善行精神の
 普及・善行の実施により
 「明るい住みよい社会環境
 づくり」という崇高な理想
 を掲げ昭和十二年に設立、
 七十五年を迎えたボランティア
 団体です。このうち北毛
 支部は、発足十一年目と経
 験も浅い団体ですが、九十
 一人の会員皆、意気は高く、
 堅い「絆」によって結ばれ、
 会の崇高な理想実現のため
 に、花いっぱい運動、チャ
 リティーゴルフコンペ、慰
 問・支援活動、防犯パトロー
 ル等社会貢献活動に努めて
 います。

がんばろう！子持山学園
 いつまでも応援します。



二ツ橋 千春

私は中学一年生から高校卒業まで子持山学園でお世話になりました。最初は知らない場所、知らない人達との集団生活が不安でした。でも日が経つにつれてみんなの輪に入る事ができるようになっていきました。しかし、私は学園を早く出たい、早く自由になりたいといつも思っていました。そんな思いから高校への進学はしなれないと言いつづけていた私でしたが沢山の方々の意見を聞き進学という道を選びました。そして高校生活が始まり、私は自分の好き勝手な事ばかりしていて先生方の言う事など一切聞かず、いつも迷惑ばかりかけていました。でも先生方はこんな私の事を見捨てずいつも支えて、親身に接してくれました。そしていつの間にか高校卒業の日が来て学園を旅立つ時がきました。社会人になって色々な大変さ



があり、その度に学園の有り難さが分かりました。今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

卒園して早八年になり、日々大変な事がありますが沢山の方々に支えられ、毎日頑張っています。これから先、色々な事があると思いますが学園での生活を思い出しながら、頑張っていこうと思います。園長先生をはじめ、諸先生方、本当に有り難うございました。

後輩が希望を持てるような生き方をしたい

希望を失っていた私に手を差し伸べてくれた

子持山学園 主任指導員 長島英之

子持山学園（二〇〇八年卒）

子持山学園 高校一年

技術職

幼い頃は、嫌な事や上手くいかない事がある度、育つた環境のせいにしていました。親のいない自分不幸で、友達より大きなハンデがあるように思っていたのです。実際は友達にも悩みがあり、人によつては借金や両親の不仲など深刻な事態だつてあつたのです。お金の無い不安も空腹の辛さも知らずに、高校まで通い社会に出してもらえた事を今はとても幸せだつたと思えます。

私は、嫌なことは「嫌」、好きなことは「好」と真つ二つにしてしまい、嫌なことは絶対にやらない、好きなことは何でもやると昔はやっていました。そのせいで学校での交友関係、上下関係が上手くいかず、不登校になり、悪い友達と一緒にいるようになり、私は希望を失っていました。

恩返しなど大それた事は出来ませんが、施設の先輩として、後輩が将来に希望を持てる様な生き方をしたいと思ひ、現在は頑張っています。

しかし、そんな私に手を差し伸べてくれたのが子持山学園でした。それから私は、昔の私では無理だと言われていた高校にも入学することが出来ました。それを機に人と明るく接するようになったら、交友関係も上手くいき、昔では考えられないほど、充実した人生を送っています。

在園生の皆さん、どうか足りない事に嘆かず、今ある生活を楽しんで下さい。

私は、今の生活をもの足りないなんて、とても思えません。むしろ、足りすぎていくくらいです。なので、今を大事にしながらか楽しい人生を送っていききたいです。

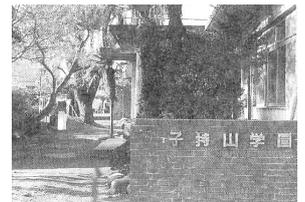
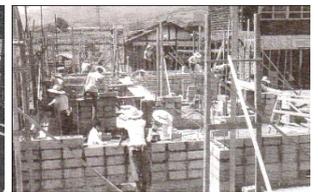
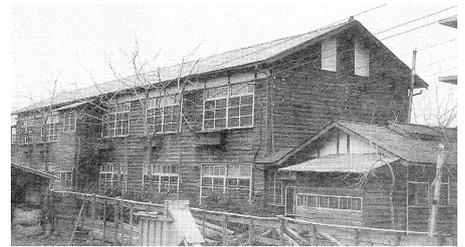
「先輩」と「後輩」の文章を読んで、もの見え方つめて思いました。一人とも、つらい過去や解決しきれない悩みを抱えているはずなのに、強く、優しく、一歩一歩進んでいます。子持山学園の職員、学校の先生や友達、地域の方やボランティアさんなど多くの方々の素晴らしい出会いが、子どもたちの心を豊かに育み、夢に向かう努力の原動力になつていると思います。特に思春期には様々な選択や岐路が付きものです。子どもたちの確かな一歩に我々職員はしっかりと寄り添いながら、その成長を見届けたいと思います。

エキスパート児童福祉支援協会「未来のつばさ十三号」に掲載された「リレーメッセージ」より転載

子持山学園 60年の歩み

昭
和

- 27. 8.18 養護施設子持山学園創立 定員50名
設立発起人 中澤 英三 中澤 英代
浦野 匡彦 荻野 一郎
- 28.11. 2 法人認可
保育園(27年~29年)
幼稚園(29年~37年3月末、子持山幼稚園)
- 29. 9.15 定員60名に変更
- 34. 4. 1 定員74名に変更
- 34. 4. 5 食堂、浴室、調理室を新築
- 36.10.15 本館改築
- 49. 3.31 本館、別館の2Fを増築
- 56. 1.20 創立者 中澤英三 召天
新理事長 篠原栄一 新園長 中澤文字
- 59.11. 3 創立30周年記念事業として創立者の遺徳を偲びつつ、
卒園生の心の拠り所として創立記念碑建立
- 61. 4. 1 児童数の減少により暫定定員(71名)
- 3. 4. 1 定員50名に変更
- 7. 9 ~ 施設の老朽化により改築計画
- 8.12.23 地鎮祭
- 9. 2 ~ 戸所孝雄新理事長就任
- 9. 7.31 新園舎改築完了(竣工式9/17)
- 10. 2.19 法人名を子持山福祉会に変更
- 11. 4. 1 要養護児童の急増により定員変更(56名)
- 11. 9.14 心理療法実施施設として認可
- 12. 3.31 カウンセリングルーム増築
- 12.10. 1 地域小規模児童養護施設設置(一戸建て借家)
- 14. 3.25 浅田ホーム(地域小規模施設)の土地購入
(旧子持村土地開発公社より)
- 14.11.30 浅田ホーム完成(日本自転車振興会助成)
- 16. 4. 1 旧シオンホームスタート(第2別館使用)
(小規模グループケア)
- 17. 7. 1 島田卓爾新理事長就任
- 20.12. 1 園庭・遊具整備事業(エキスパートグループ助成)
本園各ホームキッチン改修
- 21. 4. 1 豊田誠新園長就任
- 21. 7.22 中澤文字 名誉園長就任
- 21.11.30 収納建具改修事業(エキスパートグループ助成)
- 21. 4. 1 定員変更(53名)
- 22. 4. 1 定員変更(50名)
- 23. 4. 8 新シオンホーム完成、奉献式
(国の耐震化整備事業、エキスパートグループ助成)



平
成



旧シオンホーム
(旧第2別館)



新園舎



浅田ホーム



新シオンホーム



平成24年度 法人役員、施設職員紹介(50音順)

- 理事** 島田卓爾(理事長) 石北敏一、小野宇三郎、釘島伸博
齋藤雅人、豊田 誠(園長) 中澤文字(名誉園長)
- 監事** 齋藤 實、中野順夫
- 評議員** 石坂恒二、生方貴美江、大塚廣末、小林則義、小山一成
高橋 潔、根岸一之、埴田昭三

- 職員** 豊田 誠(園長) 阿部野々香、飯島 梓、飯塚由美
大澤好美、太田優子、大場綾乃、大嶺真勝、黒澤夏美
柴崎貴子、鈴木まつみ、田中朋子、中里宏美、中澤和美
長島英之、萩原啓子、萩原佐輝乃、原澤君枝、布施聡一郎
町田麻奈美、松田千穂、森田大介、安井 剛、矢内千絵
柳井朋子、山田美穂、吉田秀樹



2011.04.07

活動報告

平成23年10月

平成24年3月

- ・プロバスケツト観戦招待
- ・全日本プロレス招待(水上)
- ・JR旅のプレゼント
- ・さつまいも掘り、栗拾い
- ・群養協ミニサツカー大会
- ・学園詩・作文コンクール
- ・JR東労組文化祭、平和集会
- ・七五三児童祝福式
- ・高崎和田ライオンズクラブ七五三撮影
- ・ザスパ草津観戦招待
- ・おもちゃ王国招待
- ・資生堂自立支援セミナー(高校生)
- ・渋川教会クリスマスゴスペルコンサート
- ・渋川チャイルドゆめフェスティバル
- ・園内餅つき(日本善行会)
- ・学園、地域、教会クリスマス会
- ・三愛荘クリスマス礼拝(生誕劇)
- ・ヤナセバイク(ハーレー)来園
- ・年末年始の帰省
- ・Voxrayコンサート
- ・地区上毛カルタ大会
- ・全日本プロレス招待(前橋)
- ・学園スキー・スノー教室、そり遊び
- ・節分
- ・渋川市少年なわとび大会
- ・いちご大福作り
- ・群馬高専小島先生サイエンスマジック
- ・県内ALTの先生来園、交流
- ・卒業祝い(幼・小・中・高)
- ・園内保育お別れ遠足
- ・渋川中央ライオンズクラブパーベキュー
- ・卒園児童 壮行会(二名卒園)

その他、多数の招待や寄贈等を賜っています。

平成二十四年四月入所児童状況

- ・幼児 一名
- ・幼稚園 三名
- ・小学生十六名
- ・中学生十五名
- ・高校生十四名

JR旅のプレゼント



バーベキュー
(渋川中央ライオンズクラブ)



さつまいも掘り



おもちゃ王国招待



サイエンスマジック



三愛荘へ慰問



餅つき(善行会)



全日本プロレス!!



憧れのハーレー!!



大変お世話になりました

(平成二十三年年度 退職職員)

春の日差しが暖かく、吹き抜ける風が心地よくなってきました。子持山学園の子もたちと出会い、一緒に生活を始めてあっという間に四年が経ちました。この四年間を思い出すと、子どもの成長と共に私自身も成長することができた日々でした。子どもと生活していく中で、特に言葉の伝え方によく悩みました。ゆっくり食事をする子に「早く食べてね」というよりも「よく噛んで食べてね」と伝えたり、日常の会話の中で思いやる言葉を使うと子どもは素直に向き合ってくれました。また子どもと一緒にごはんを食べたりお風呂に入りたいなあと思うけれど、四月から新しい道で頑張ります。笑顔で退職の日を迎えられた事に感謝し皆様のご健康をお祈り致します。

児童指導員 五十嵐絵美

桜の季節もいつしか過ぎ、木々が芽吹き新緑の葉が茂る季節となりました。この頃になると、入職した頃の期待と、緊張を思い出します。

入職して八年。右も左もわからなかった私が今までやってこられたのは、見守り、支援してくださった職場の皆さんのおかげだと思っています。子どもを支援する立場の私ですが、この学園に来て改めて、助けられ支えられながら生活を共にしていくことの大切さを学ばせてもらいました。また何よりも、子持山学園で体験したいろんな場面一つ一つを一緒に過ごし、笑顔・泣き顔を共有してきてくれた子どもたちとの思い出は、私にとって宝物になりました。

生活を共にする・共に生きることができると子持山学園。この場所で働いたこと心から感謝いたしております。長い間本当にありがとうございました。

心理療法師 海野千鶴

お心遣いに感謝致します

(11・10)12・03) 敬称略・順不同

寄付金

須藤いつみ 大塚廣末、山口道子、島村美也子、中澤文子、飯塚寛巳、渋川皮膚科医院、佐藤肇、島田卓爾、蛭川かつ子、斉藤医院、大橋末六、石北医院、渡辺真由美、渋川教会、小金静枝、青木登志子、布施英俊、小野上地区更生保護女性会、中村光孝、日本善行会群馬県北毛支部、渋川中央ライオンズクラブ

他多数の各位

寄贈物品

鹿島工レクト口産業㈱、小澤二一、町田勝次、小野武信、矢内晋作(財)日本真綿協会、中澤達雄、㈱ニトリ、陸川恭太、㈱チユウユアン、三國コカコーラボトリング㈱、神楽サロンの出版、三菱東京UFJ銀行、全国シヤンメリ共同組合、五十嵐研介、並木なつ江、小野上更生婦人会、東洋英和女学院小学部、萩原潤、田中小百合、金子誠、唐澤美智代、㈱深川フーズファクトリー、宮川ゆう子、小山一成、林克美、中新井要子、丹羽綾、毎日新聞東京社会事業団、綿貫澄夫、萩原英樹、亀山理映、堀川愛生園、熊沢百恵、日本餅組組合、木暮京子、大瀧眞勝、石北医院、渋川青翠高校家庭科クラブ、坂本功、DODA入オレンジリボン子育て支援団体other of Pearl、田子守久、㈱フレナス、石井キミ、柳井元子、林弘子、子どもに伝えるクラシック制作委員会、大北颯子、釘島伸博(まつた商店、清水くさ江、三愛荘、中央ライフサポートセンター、岸珠美、星野物産、モギカバン店、㈱アベックス、消防学校(鈴木・白石・植野)、DADA Cubic、梅澤真紀、狩野美佐子、竹之内久子、須藤達司、武藤孝夫、山本淳子、藤井正雄、守谷良子、㈱コラボレーション

他多数の各位

ボランティア

児童交流 須藤いつみ 杉本日和 都筑徹、ベビーマッサージ 林 弘子、書道 山口道子、大塚廣末、絵画教室 ビノキ才絵画教室 学習

・群馬県青年赤十字奉仕団(五十嵐美季、岩井勇樹、鈴木操士、早川怜、穂効優人、都丸希美、森岡翔太、原澤彰、金子彩乃)・群馬大学生(早川愛美)・ピアニ 後藤玲子

掲示板

退職職員

海野千鶴(心理療法士)、五十嵐絵美(児童指導員)、加藤真 非常勤スタッフ) 大変お世話になりました。

新任職員

田中朋子(臨床心理士)、黒澤夏美(保育士) ご指導の程宜しくお願ひ致します。

苦情解決報告 計一件

(平成三十一年十一月)平成 四年三月)内容「職員の間で言動について改善を求めたい」結果「苦情解決責任者立ち会ひのもと、職員と子どもで面談、職員より謝罪と改善の約束。」

ご支援・ご招待等々、ありがとうございました。



県共同募金会様「NHK歳末たすけあい」普通自動車免許を取得する二名の高校生が一人二十万円の支援(配分)を受けました。県民の皆様は善意に感謝します。

アベックス様

高級寝具(掛け敷き布団、枕、枕カバー、敷きパッド、布団セット等)を賜りました。

全日本プロレス様

水上のイベント招待。試合前に浜亮太選手が当園に遊びに来てくれて交流。リング上の勇ましい姿に大興奮!!

JR東労組高崎地方本部様

「旅のプレゼント」ポテリング大会、等々、東日本大震災の被災地への慰問に、当園の高校生一年生男子が同行させて頂きました。被災者との触れ合いに学びが多かったです。貴重な機会を頂きました。

篠原徹様

年間を通して農業体験。いい汗いた!! 日本善行会群馬県北毛支部様 日頃からお心遣い、餅つきのご奉仕。

㈱コラボレーション様

お好み焼きもんじや焼専門店KANSAIの食事券二千円分七七枚の寄贈。一般家庭が食事に行く時のようにとのご配慮。

渋川中央ライオンズクラブ様

創設二十周年おめでとございます。寄付、パーベキューのご奉仕。

茂木武雄様

トラックいっぱいリンゴを頂きました。りんごジュースに加工。おいしかった!!

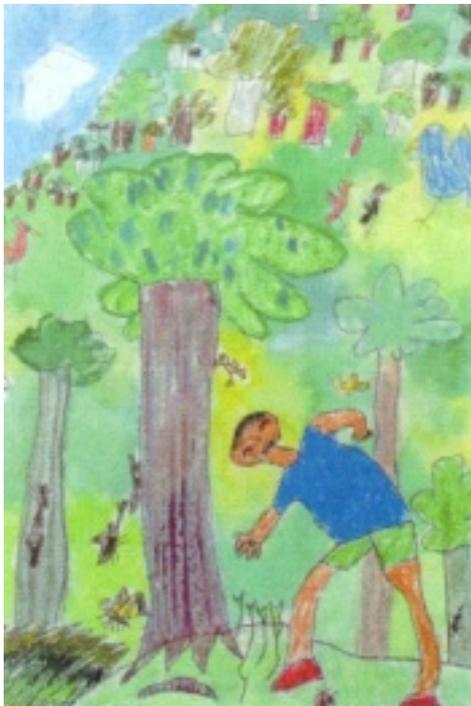
モギカバン様

小学生用の「モギオリジナルランドセル」を賜りました。

㈱ヤナセオート様

ハーレー数十台が園庭に集結。ド迫力!!

お米、洋服、野菜、果物、子どもとの触れ合い、励まし、寄付等々、大勢の皆さまの温かな善意の上に私たちの生活が成り立っております。今後とも宜しくお願ひ申し上げます。



北極星

多くの方のご支援・ご寄稿により、子持山学園創立六十周年記念号を無事発行する事が出来ました。心より感謝いたします。

創立者の中澤英三から始まり、各時代の支援者や職員たちが繋いできた六十年間の歩み。それらを振り返る作業をして、良き伝統や願いを引き継ぎながら昇華し、次の時代へと繋いでいく事が、今こに在る私たち職員の責務であると、改めて自覚をする事が出来ました。

ここで子ども時代を過ごし、巣立って行ったかつての子どもたち。今ここで暮らしている四十九人の子どもたち。彼らに関わる全ての方たちの、ご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ、編集後記とさせていただきます。

(鈴木)

群馬県 環境森林部 緑化推進課 平成23年度 緑化運動ポスターコンクール 県知事より金賞受賞 小学1年男子